



楽しい花火 正しく安全に！



楽しい花火の原料は「火薬」です。火災ややけどなどの事故が起こらないようじゅうぶんに注意して、周囲の迷惑とならないようルールとマナーを守って楽しい夏にしましょう。

●チェックしよう！安全に花火で遊ぶポイント

- 子どもだけで、花火をしない、させない。大人が付き添う。
- 水の入ったバケツを用意し、遊び終わった花火は、水につけて確実に消す。
- 風の強いときや空気が乾燥しているときは花火をやめる。
- 正しい場所と正しい方法で点火する。マッチやライター、花火で点火せず、ろうそくなどで点ける（一度にたくさんの火を点けない）。
- 花火を人や家に向けたり、燃えやすいものがある場所で遊ばない。服に火がつかないように気をつける。
- 噴き出し、打ち上げなどの筒物花火は、途中で火が消えても、筒をのぞかない（大けがにつながる恐れがあるため）。
- 花火をポケットに入れて持ち運んだり、花火をほぐして遊ばない。

●花火は、迷惑にならない場所と時間と後始末を

深夜に花火をしたり、その後片付けをしないなど、周辺住民への迷惑行為が深刻化しています。ルールとマナーを守り、夏の楽しい思い出にしましょう。

チケット情報

ひこね市文化プラザ

7月23日(金・祝) 18:30 グランドホール
『劇団四季 The Bridge ~歌の架け橋~』

指定 【好評発売中】 小学生以上 託児あり(有料・要予約)

ひこね市文化プラザ友の会
S席 9,000円 A席 6,600円 B席 3,300円
一般
S席 9,900円 A席 6,600円 B席 3,300円

JR 東日本四季劇場 [春] の開場記念作品として上演された新作ミュージカル『劇団四季 The Bridge ~歌の架け橋~』が彦根にやってくる!おなじみの海外ミュージカルからファミリーミュージカルのナンバーまで、名曲の数々にダンスやストリートプレイの台詞朗読も交えステージを彩ります!



▲撮影：荒井健



▲撮影：荒井健

申込・お問い合わせ先 チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)
チケットはインターネットでもご購入いただけます。https://bunpla.jp/

7月の休館日：5日月、12日月、19日月、26日月

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取扱い】
※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

【ひこね市文化プラザ・みずほ文化センターでは、次の感染症対策を実施しています】▶館内設備の定期消毒 ▶手指消毒液の設置
▶飛沫飛散防止カーテンの設置 ▶非接触型体温計の常備 ▶新型コロナウイルス感染拡大防止システム「もしサボ滋賀」の表示の設置

みずほ文化センター

8月14日(土)14:00 多目的ホール
彦根亭 みずほ寄席 葉内公演

自由 【好評発売中】 小学生以上 託児あり(有料・要予約)

前売500円、当日600円
出演：【落語】笑福亭鶴松、桂咲之輔
【漫才】コンチェルト【漫談】代走みつくに

ワンコインで笑顔いっぱい!松竹芸能一押しの日々が登場!!



申込・お問い合わせ先 みずほ文化センター
☎43-8111 (9:00~17:00)

7月の休館日：6日月、13日月、20日月、24日土、27日月

◎表記の価格は全て税込価格です。
◎入場制限のある公演は、託児サービスを実施します。
子ども1人1,000円。各ホールまで事前予約が必要です。

テーマ展

7月14日(水)まで
「“写し” - 日本美術を読み解くキーワード -」
日本の美術における、さまざまな「写し」のあり方と特徴を、館蔵品を通して紹介します。

企画展

7月17日(土)~8月17日(火)
「中川禄郎 - 井伊直弼を支えた儒学者 -」
中川禄郎 (1796~1854) は、井伊家12代直亮、13代直弼に仕えた儒学者です。特に直弼には、藩主としての心得を説き、外国との通商を進言するなど大きな影響を与えました。本展では、禄郎自筆の書や古文書などから、その生涯に迫ります。



▲中川禄郎画像

- ① スライドトーク 7月17日(土) 14:00~(30分程度) ※無料
- ② 関連講座「井伊直弼を支えた儒学者 中川禄郎の人と学問」 7月31日(土) 14:00~15:30 ※100円(資料代)
- ①・②共通事項 解説：当館学芸員 場所：講堂 当日受付(先着35人) 観覧料は別途必要

私の研究最前線

彦根城博物館の学芸員が、各自の研究テーマについて、日頃の研究成果を踏まえて解説します。

7月3日(土) 14:00~15:30
「湖東焼研究の一級資料 関東大震災罹災品」

井伊家に伝来した湖東焼は、大半が関東大震災で罹災してしまいましたが、これらは、質、量ともに湖東焼研究の基礎資料として重要な位置を占めています。本講では、罹災湖東焼全点調査の成果を報告します。



▲罹災湖東焼

講師：当館学芸員 場所：講堂
当日受付(先着35人) ※100円(資料代)

■7月15日(木)・同16日(金)は、展示替えのため一部休室します。

中川禄郎(一七九六~一八五四)は、井伊家十二代直亮十三代直弼に仕えた彦根藩の儒学者です。とりわけ直弼には藩主としての心得や開国を説くなど、その政治思想に大きな影響を与えた人物として知られています。実はこれに加えて、禄郎は江戸での資金繰りに苦慮する世継ぎ時代の直弼を陰ながら支えていました。その様子を、禄郎が直弼に送った嘉永三年(一八五〇)六月付けの手紙「写真」から見てみましょう。

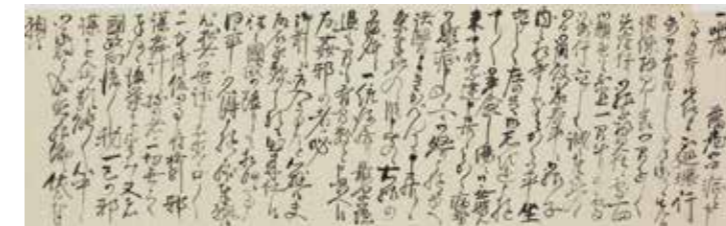
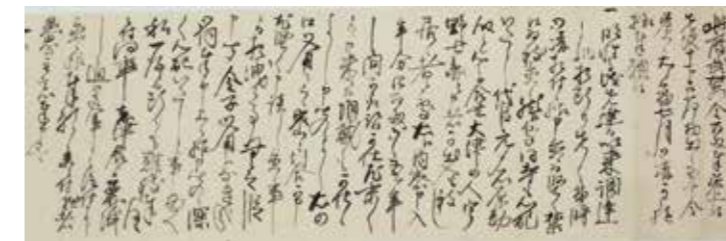
この手紙には、直弼の懐事情を心配した明性寺が、彦根藩定軽の石原勘介の協力により、五年の間毎年四百両もの資金を宇野七兵衛という人物から内々に提供させる旨を禄郎に申し出たことが記されています。これに対して禄郎は、対応を直弼に伺った上で、この提案を断るよう手紙の中で進言しました。禄郎がこのように主張したのは、時の藩主直亮が体調不良により間もなく藩主を退く状況であったことから、直弼に取り入ろうとする石原や宇野が今後の藩政の障害になりかねないと考えたためだったのです。

この出来事でまず注目されるのが、財政支援を申し出た明性寺と直弼を仲介する役割を禄郎が果たしていることです。実はこれ以前にも、彦根城下に暮らす商人の奥野武衛門がたびたび直弼に資金提供を行っていました。また、それと並行して、さらに、禄郎の仲介が直弼の後々の藩政運営を見極めた上でのことであった点も、二人の関係を考える上で興味深いところなのです。

であるに留まらず、苦しい江戸での生活や自身の行く末をも案じてくれる類い稀な存在であったのです。

【彦根城博物館学芸員 北野智也】

写真の古文書は、企画展「中川禄郎 - 井伊直弼を支えた儒学者 -」で7月17日(土)~8月17日(火)の期間、展示します。



▲中川禄郎上書(彦根藩井伊家文書)【部分】

世継ぎ時代の井伊直弼を支えた儒学者・中川禄郎

よきの玉手箱

博物館からのメッセージ